

暮老連ニュース

第162号

暮老連の目的

老人囲碁同好会の誰もが、活きいきと生命力を維持し“碁を楽しむ”ことができるよう、機会と場所を確保するために相協力し、囲碁を通じて親睦をはかり、更には、より良き福祉社会に貢献することを念願する。

発行日	平成 17 年 1 月 15 日
発行所	八王子の碁を楽しむ老人連合
住 所	久保山町 1-9-3-303
TEL	(0426) 92-3973
発行人	松田 礼治
編集者	三上 靖宏

<http://www.asahi-net.or.jp/~jh8r-mtd/gororen/>

明けましておめでとうございます

平成17年元旦 会長 松田礼治

旧年中はいろいろお世話になり有難うございました。昨年の行事は皆様方のご協力により無事終了いたしました。本年も協力の程よろしく願いいたします。



昨年は活きいき囲碁地域大会の自主運営・会計処理の簡素化、暮老連ニュースの充実、規約改定の趣旨徹底等々をおこないました。今年は規約の見直し・不備是正、活きいき囲碁地域大会への技術顧問の派遣廃止など更なる効率化、本部役員任期オーバーラップによるシームレスな運営・効率化、永年の懸案であった業務運営室業務の見直し・改組、本部大会の改善等に努力していきます。

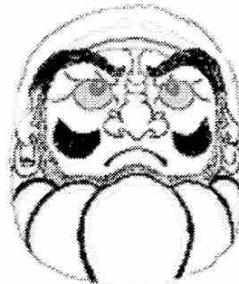
話題に上がるが「検討されない、実行されない、引継ぎされない」の「ないない習慣」を改め、机上シミュレーションで確認して、何事にも果敢に取り組みます。前会長の真田誠次さんが年頭所感に『そこで私は癖と言っても何事に対しても「前向きに前進する癖」がつけられたらと思っています。そのためには意識革命というか大袈裟に言えば人間革命をして境涯を少しでも大きく開くことが必要でしょう。』と書かれています。全く同感です。

コミュニケーションの機会がない。人の集まる活きいき囲碁地域大会、碁老連大会、棋聖大賞大会、総会等で少しでも時間を設けて話し合いたいと思います。コミュニケーションは全ての始まりです。何でも結構です、お待ちしております。

最後になりましたが碁老連の目的は「囲碁を通して親睦をはかり、更にはより良き福祉社会に貢献する」事です。お膳立てして貰って碁を打つことではありません。「してもらいではなく、ボランティア精神でしてあげる事」が大切です。本部役員から会員までみんなサクセスフル・エイジングでいきましょう！

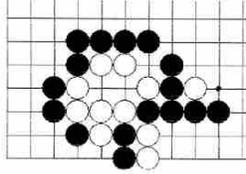
第12回碁老連タイトル争奪戦のご案内

日 時	平成17年2月13日(日) 受付午前9時10分～9時30分(厳守)
会 場	東浅川保健福祉センター(東浅川町551-1、電話67-1331)
主 催	碁老連
後 援	八王子市、八王子市教育委員会、日本棋院
タイトル	八王子名人、八王子王座、八王子天狗
参加資格	各地区同好会のタイトル保持者 (王座戦、天狗戦は届出準優勝者代理出席可)
参加費	700円(弁当代を含む)
注意事項	自家用車でのご参加はなるべくご遠慮ください。

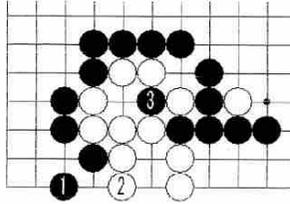


基 楽 室

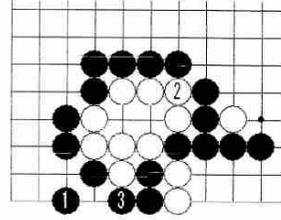
161号 詰碁問題
黒先 白石を取ってください



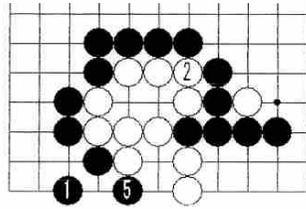
161号詰碁 別解答



161号 詰碁解答①



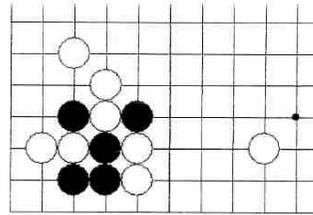
161号 詰碁解答 ②



162号詰碁 問 題
黒先手で生きてください。



手数が
長いのでよく
読んで



私の囲碁人生と「碁ロウ連」

由木寿囲碁同好会 竹島正義

人と囲碁との出会いは、プロの場合は別として、一般には、初回は猛烈に濃厚な時期があり、その後は疎遠になったり近づいたり、いろいろ変化があるようである。私の場合も例外ではない。初回は、今からおよそ50年前、昭和30年頃に遡る。当時駆け出しサラリーマンだった私に「お前の性に合いそうだから・・・。」と、熱心に囲碁を薦めてくれる職場の先輩がいた。父、長兄とも素人有段者だったことも影響したのであろう。私は、薦められるまま、その先輩から手ほどきを受けた。当時、職場で年2回ほど囲碁会が催されていたが、囲碁の魅力に引き込まれた私は、隔回ごとくらしいに優勝を続け、2年も経たないうちに先輩に白を持つようになった。異動により職場環境が変わったこともあり、囲碁に熱中したのは、4、5年であったろう。

昭和50年代半ばになって囲碁の盛んな職場に移った。そこでは、毎月1回プロの谷宮悌二先生（当時7段）夫妻に指導を受けていた。私が水を得た魚のごとく熱中したのはもちろんであるが、思いがけなく、新聞に出ないかとの声がかかった。夕刊フジの「女流プロにチャレンジ」コーナーで谷宮絢子先生（2段）に5子で教えていただくのである。対局場は、ホテルオークラの囲碁サロン、観戦記者まで盤側に着席しての対局だった。対局前に、記者からは、実業団で相当やったのでは・・・、等の買いかぶった質問も加わり、すっかりあがってしまった。美人の誉れ高い奥様と1時間余りも正対しての対局は、楽しくはあったが、緊張の連続でもあった。棋譜は、10日間ほど写真入りで毎日掲載された。友人、知己から冷やかしの混じりの感想などもあり、よき思い出となったものである。

3度目の出会いが、平成7、8年頃から今日まで続いており、おそらく人生最終の出会いとなるであろう。南大沢の今の団地に住むようになってから、近くの人に寿同好会を教えていただいた。3段で入り、最近ようやく5段になったところである。

ところで、私は今73歳、誕生から50余年を殆ど都心で過ごした後、八王子市での生活も20年を経過してすっかり八王子人というか、多摩ニュータウン人間になりきった感じで、住み心地の良さに充実した日々を送っている。

碁老連が生き甲斐の一つともなりつつあるのだが、ひとつ、心の中に引っかかりを感じるものがある。それは、碁老連の「老」の字である。確かに私のような年齢ともなれば傍から見て老以外の何ものでもないかもしれない。いや、まさに老そのものであろう。しかし、会則によると、入会資格は「60歳以上」となっている。60歳といえば、一般的に官公庁、大企業の定年年齢と思われるが、最近では60歳で全くリタイアする人は少ないのではなからうか。多くは、せめて65歳くらいまでは働きたいと願い、また、そうしているであろう。そこには、その人の肉体的な能力と精神力が裏付けとして存在する。つまり、俺は、まだ若い、老いぼれてはいないという自覚である。私は、それらの会員諸氏に対して囲碁を楽しむ「老人連合」として括ってしまうことはいささか気の毒な気がする。かくいう私も、客観的には老人そのものであるが、内心では必ずしもそうではない。12年前初孫が生まれたとき、娘夫婦に対して、孫をして「おじいちゃん」と呼ばしめぬようにと、申し渡した。息子夫婦の内孫を含めて3人となった孫たちは、私に対して今もなお「大パパ」である。私は、文字通り老いさらばえるまで「ロウ」とは呼ばれたくない。これがまた、私の今後の励みや努力につながるような気がする。

では、「老人」をなんと呼ぶのがふさわしいか。私は、平明に「高年者」、あるいは、せめて「高齢者」が適当と考える。「老人」は、単に誕生からの経年の長さを意味する以上に、個人の肉体的、または、精神的な老化を意味するようにみえる。若年者でも老人と呼ぶのがふさわしいくらい老化している人がいる。つまり個体によって違うのである。私は、囲碁をたしなむ人は、若々しい感覚を持ち、「老」とはあまり縁のない人が多いと思っている。日本人の平均寿命も年ごとに伸びつつある。碁老連の名付け親には申し訳なく思うが、この際、名称を「碁高連（碁を楽しむ高年者連合）」と変えてはいかがだろう。ゴコウレン、なんと響きのよい言葉ではなからうか。多くの会員のご意見を聞きたいものである。

碁老連（碁を楽しむ老人連合）の名称—何とかならんかと思われている方も多いと存じます。是非皆さんから候補名のご提案、ご意見頂きたいものです。

役員会報告

1. 本部役員交代方法の変更について

寿囲碁同好会会長にアンケート結果10同好会から役員任期のオーバーラップに賛成を頂きました。次グループ寿同好会会長に候補者選任を依頼すると共に総会にかけるための規約改正に着手します。

2. 碁老連大会総括

スイス方式については初めてのことで組合せ、順位付けについて問題もありましたが関係者の協力の結果、無事終了でき有難うございました。なお、欠席が多く32名超の順位付けに採用したスイス方式が十分に機能したとは言えません。また現環境では組合せ、順位付けに時間がかかり過ぎます。皆様の意見を持ち寄り更に詳細に検討し来年以降の対局方法を決めたいと思います。どうかご意見をお寄せ下さい。

3. センター利用方法の変更

第6、7集会室フローリング化、新利用方法3月より実施。2時間40分以内の使用なら月4階、長時間使用は月2回予約可能。4月3日の浅川活いき囲碁大会会場はセンターから南横山市民センターに変更。センターへは極力便宜を図って頂く様お願い中。新予約方法に適合するよう諸計画を見直す必要があります。

4. 役員総会

センターの特別の計らいで3月13日(日)9時～ 第6、7集会室で開催可能になり、準備を進めています。(センターのご配慮に深謝)

5. 投稿依頼

囲碁は勿論、写真、お絵描き、デジカメ、ダンス等の趣味、ボランティア活動、人生談義等何でも結構です。ニュースの充実のため是非ご投稿ください。

三上靖宏さん業務運営室長に就任

平成16年12月末で辞任されました野崎健児さんの後任として三上靖宏さんにご取敢えず就任いただきました。任期は次期業務運営室長が見つかるまで、最長でも平成18年3月末までの約束です

ニュース138号役員会報告に「業務運営室のあり方、各室員の業務分担、室員のローテーションを検討する。」とありますがその後全く進展がありません。豊富なご経験を活用し業務運営室のあり方、その他山積する問題を検討して頂けたらと期待しています。

野崎健児さん 困難な調整業務ご苦勞様でした。